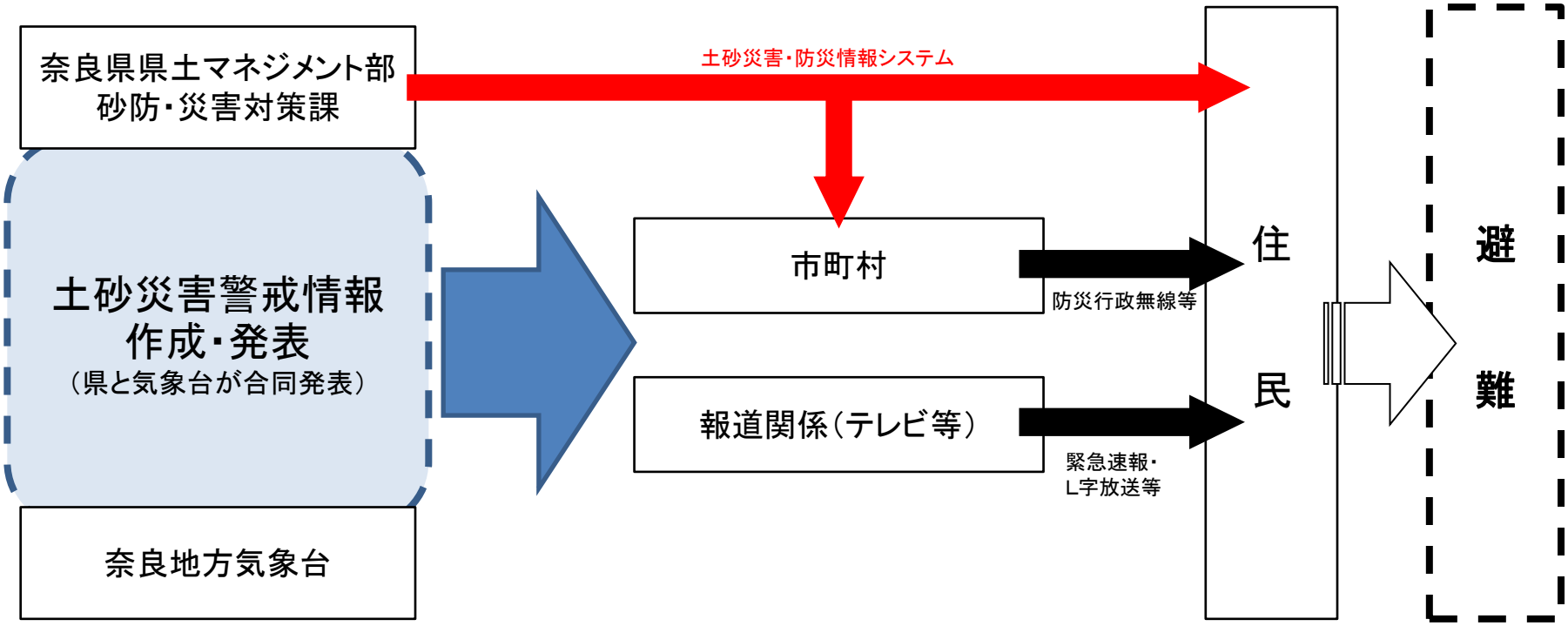
土砂災害・防災情報システムとは

奈良県と気象庁は連携し、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、市町村長が防災活動や住民等への避難勧告等の災害応急対応を適切に行っていただくため、また住民の自主避難の判断等にも使用していただくための防災情報として、土砂災害警戒情報を提供しています。

（土砂災害警戒情報についての詳細はこちら　→　http://www.pref.nara.jp/4014.htm）

『奈良県土砂災害・防災情報システム』は、市町村単位で発表される土砂災害警戒情報を補足するにあたり、災害発生の危険がある場所をより限定して把握するために市町村を1km格子（以降、1kmメッシュという）に分割して土砂災害の危険度や雨量状況など示すものとして、奈良県県土マネジメント部砂防・災害対策課のHP上で提供しています。



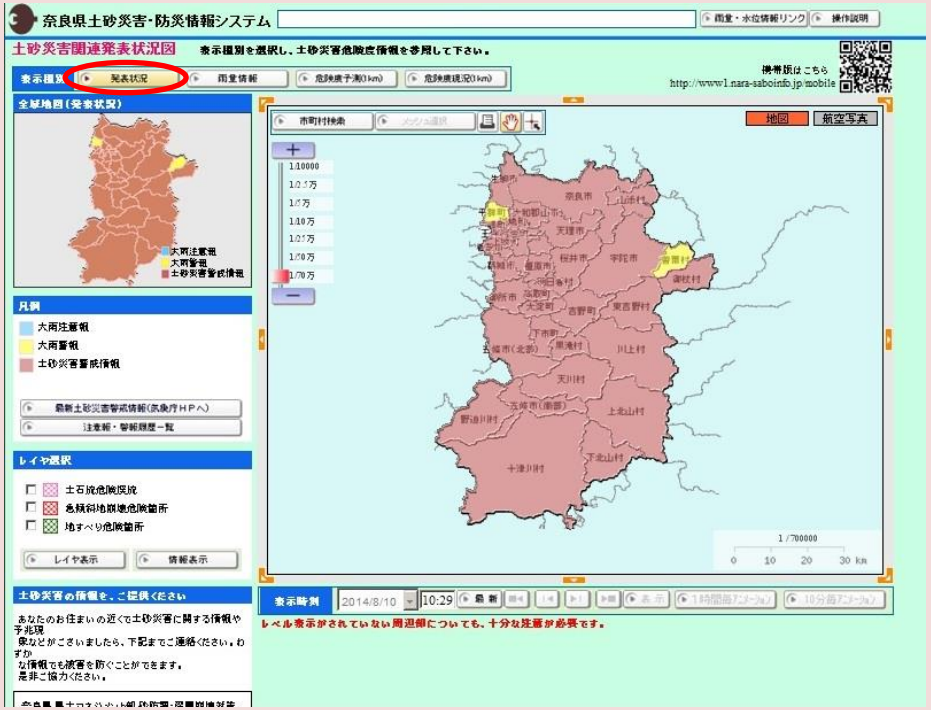
発表状況・雨量情報の見かた

土砂災害・防災情報システムでは以下の内容を表示しています。

①市町村※1ごとの大雨注意報・警報と土砂災害警戒情報の発表状況
②県内の雨量情報
③1kmメッシュごとの土砂災害の危険度予測
④1kmメッシュごとの土砂災害の危険度現況

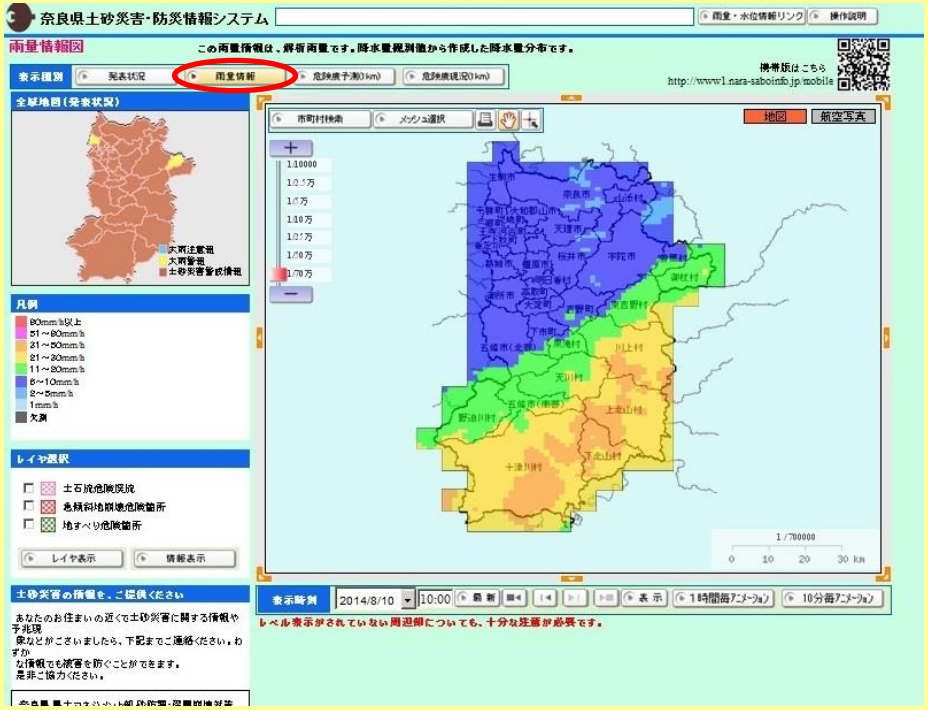
※1：ただし五條市のみ北部と南部に分けて発表される

① 発表状況（発表中の大雨注意報・警報と土砂災害警戒情報）



『発表状況』は気象情報が発表されている箇所を3色に塗り分けて示しており、大雨注意報を水色、大雨警報を黄色、土砂災害警戒情報を赤色で示しています。

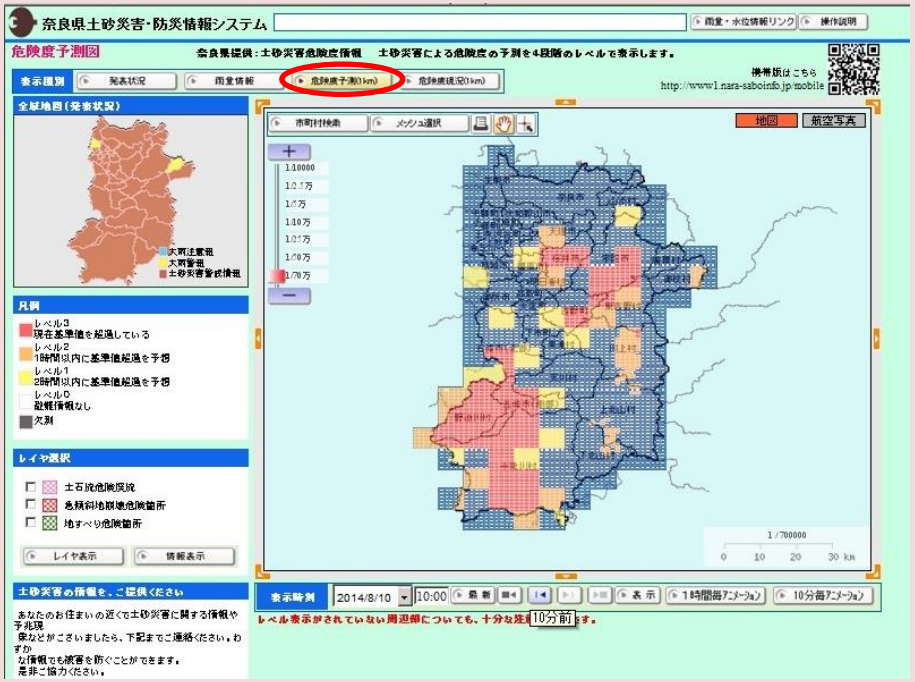
② 雨量情報



『雨量情報』は県内の時間雨量の状況を9色で塗り分け、暖色になるにつれて降雨量が多いことを示しています。

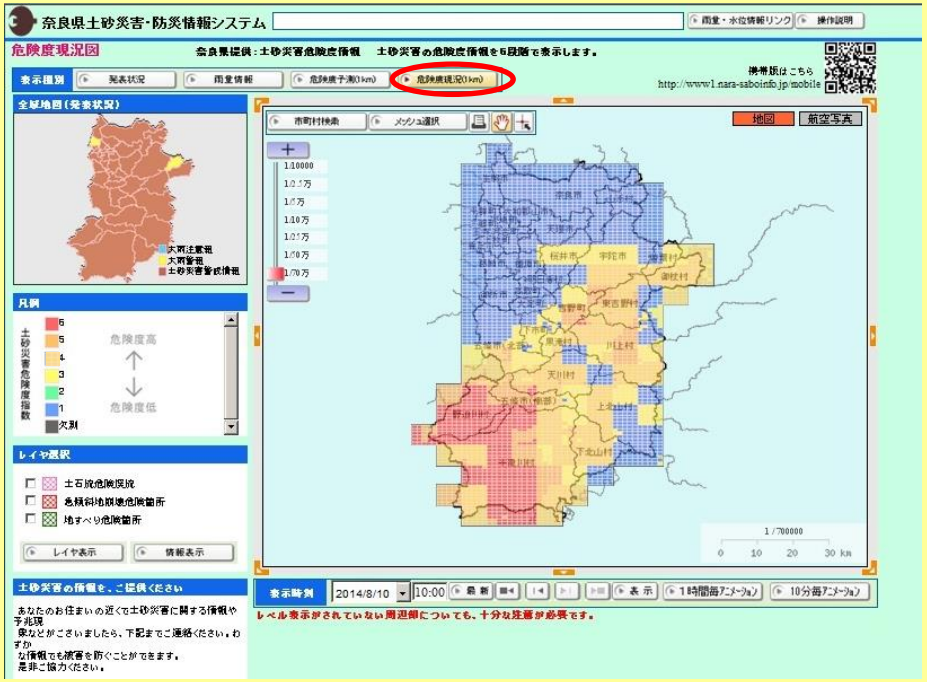
危険度予測・危険度現況の見かた

③ 危険度予測（2時間後までの予想を4段階で色分け）



『危険度予測』は避難判断の目安としていただけるよう、2時間後までの土砂災害発生の危険がある場所について詳細にお知らせるため、該当地域の危険度を4色で色分けし示しています。

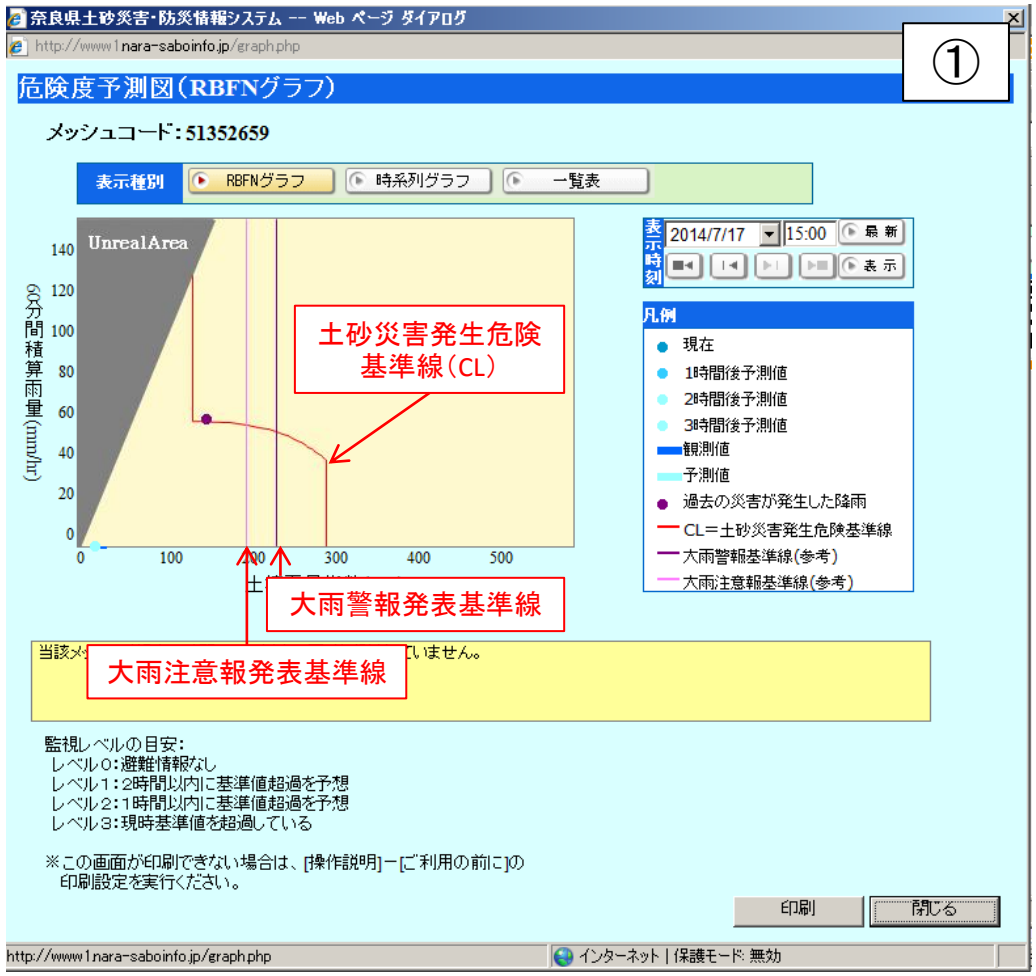
④ 危険度現況（現状の危険度を6段階で色分け）

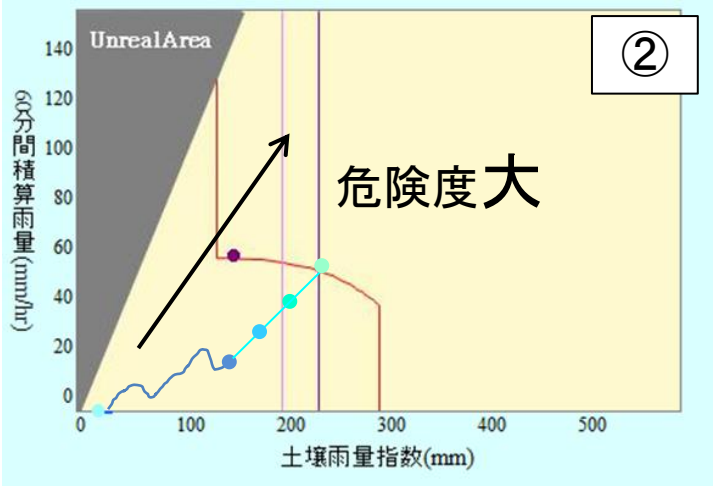


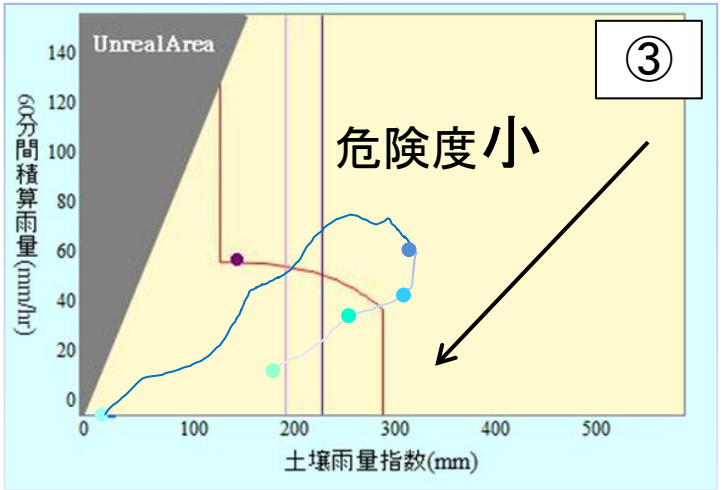
『危険度現況』は現状で土砂災害の危険がある場所を6段階で塗り分けて表示しており、暖色になるにつれて危険度が高い土地であることを示します。

また、危険度予測でも危険度現況でもメッシュを選択することで危険度予測図が立ち上がり、その1kmメッシュの現状の土砂災害の危険度と、3時間後までの危険度の予想を知ることができます。（⇒次ページ）

メッシュ情報の見かた







①メッシュを選択すると注意報・警報・土砂災害警戒情報の基準線が表示されたグラフが表示されます。
②降雨が続くと1・2・3時間後の危険度予測値を示す水色の線（スネークライン）が右肩上がりに伸び始めます。土壌雨量指数が上がり、スネークラインの予測値がCLライン（土砂災害発生危険基準線）に近づくにつれて土砂災害の発生の危険性が高くなります。早い段階での警戒や避難が必要です。
③降雨が止みしばらく経つとスネークラインが左下に向かって戻り始めます。しかし、降雨が止んでもなお土壌雨量指数が高いうちは災害発生に引き続き警戒が必要です。